

# 木野 通信

KINO PRESS.  
KYOTO SEIKA UNIVERSITY

第 78 号  
2022 July

卒業生インタビュー  
竹川侑子さん / 清水夏菜子さん

特集  
京都精華大学にしかできない

教育をめざして

対談 | 澤田昌人(学長) × ウスビ・サコ(前学長)



# 京都精華大学にしか

## できない教育をめざして

対談 — 澤田昌人(学長) × ウスビ・サコ(前学長)

2022年4月、京都精華大学の新たな学長に国際文化学部の澤田昌人が就任しました。アフリカの民族文化や地域研究を専門とする澤田は、マリ共和国出身の前学長ウスビ・サコとも親交が深く、キャンパスの国際化や未来を見すえた教育プログラムに、ともに取り組んできました。コロナ禍で大学のあり方や意義が問われ、海外との交流も大きく制限されるなか、精華はどのような教育をめざすのか。2年余りに及んだ激動のコロナ対応を振り返りながら、新旧学長が語り合います。

### 大学改革とコロナ禍の「決断」

——サコ前学長が就任した2018年以降、精華では人文学部から国際文化学部への改組とメディア表現学部の新設、クォーター制の導入など大きな改革が進みました。まずはサコ前学長の4年間で振り返り、それぞれ総括をお聞かせください。

**サコ** 私が学長に就任したのは、大学の置かれた環境が大きく変わる時期でした。文部科学省が「競争的資金」のような形

で大学間競争を強め、さまざまな法律ルールも変更された。大学運営の自由度が減り、これまでの「精華流」だけではやっていけない面が出てきました。また一部の学部で学生数の定員割れが続いていて、これを解消する必要もあった。

こうした課題に対応するために改革を急いだわけですが、同時に私は、原点に立ち戻って建学理念をもう一度点検する必要を感じていました。根本的には「人間をどう育てていくか」ということ。この方向性をみんなで議論して共有し、教

育に反映させる、内発的な取り組みをめざしました。

精華の建学理念を読み返すと、人権の尊重、多様性、国際社会への貢献など、現代社会で重視されることはすべて書かれています。世界のどの大学もここにまだ追いついていない。われわれ自身も、理念からちょっと遠ざかりつつあったように思います。そこですはりペラルアート教育の価値を見直し、強化することを掲げました。留学生を増やし、より国際的で多様なキャンパスをめざしたのも、その一環です。一時は収容定員の6割台まで落ち込んでいた学生数が9割台にまで回復したのは、そうした改革の一定の成果だったと思います。

ただ、任期3年目に入る2020年春からコロナ禍という予期せぬ事態が起こり、難しい状況に追い込まれました。思い描いていたグローバル展開も、コロナで停滞してしまったのが実情です。

**澤田** 大学間競争への対応、コンプライアンスや建学理念の問題、それに定員割

れの解消などは誰が学長になっても迫られた課題。そこにサコさんが一生懸命取り組み、前に進めたのは素晴らしいことですし、私も引き継いでいきたいと思っています。

特に大変だっただろうと思うのは、やはりコロナへの対応です。感染が広がってまだ半年、東京や関西の大学が全面的に遠隔授業を続けていたなか、後期(20年10月)から基幹科目のほとんどで対面授業を再開する決断をされた。これは本当に大きかった。よく決断されたと感じています。そのことは今年度の入学式でも話しました。

**サコ** コロナ対応では、いろんな決断を迫られましたね。学長が一つでも方針や言葉を間違えると、全部が台無しになってしまう。私は毎日笑顔で歩いていましたが、実はかなり精神的にしんどかった時期もあります。

**澤田** 私も約20年前にSARS(重症急性呼吸器症候群)が流行した当時、副学長として対応した経験があります。今回は1年ぐらいいつづくのではと当初思っていたのですが、予想よりもずっと長く、影響範囲も大きかった。

その前の2001年、9・11同時多発テロの時は国際交流室長という立場で、当時の中尾ハジメ学長が難しい決断を迫られるのを間近で見っていました。ちょうど学生たちがフィールドワークでアメリカに滞在していたんです。ニューヨークから遠く離れたオハイオ州の田舎町でし



たが、テロがどこまで拡大するかかわらず、生物化学兵器や核物質が使用されるとの情報もあった。保護者からは「早く帰国させて」と心配する声が殺到する。情報がなければプログラムを続行するか中止するか、中尾学長がギリギリの判断をしないといけなかったんです。あの時、学生の引率役として現地にいて、対応に当たったのがサコさんでしたね。

**サコ** そうです。その年の春から精華の教員になって、まだ半年ほどでした。中尾さんの電話で「中止ではなく、『中断』という選択はどうですか?」と提案すると、「それがいい!」と言われたのを覚えています。

**澤田** 今回のコロナ禍は、大学にとってそれを上回る危機的状況だったと思うんです。なにしろ誰も経験したことがない、知識もまったくないところから始まったわけですから。

### コロナ対応に現れた「人間尊重」

——新型コロナウイルスへの対応はどのように進んだのでしょうか。

**サコ** パンデミックが日本でも広がった2020年3月に、まず卒業式はやる、しかし4月の入学式は中止と決めました。オリエンテーションや授業開始は後ろに倒し、4月20日頃から、もちろん遠隔授業ですが、最初はノウハウも設備もなく、できる科目も限られていました。学生にタブレットを貸し出し、5万円の給付金

支給を決め、情報館の図書は大学から送り、検索も遠隔でできるようにして……。職員全員が対応業務に回り、とにかく今を乗り切ろうと。で、7月頃から基幹科目で対面を少しずつやり始めたわけです。

**澤田** だんだんガイドラインが見えてきた時期ですよ。最初は、「すれ違うだけで感染する」なんて話もあったのが、換気と消毒を徹底すればいいとわかってきた。そこから一部対面授業が始まり、続いてさっき言ったように後期からほとんどの授業で対面になったという流れです。遠隔授業というのはどうしても教育効果が低くなり、芸術系の学部では制作環境や体験自体が失われる。キャンパスに來られない学生たちの孤立感は深まり、特に1年生は友だちをつくる機会もない。

岡本清一(初代学長)の言葉にある通り、「大学は学問と教育と深い友情とを発見する場所(※1)」です。特に最後の友情は大事で、大学は損得抜きに付き合える友と出会う最後の機会になるかもしれない。だから、ともに一つの空間や教室で学び、人と接することが重要になるわけですが、感染経路や予防策がはっきりわからない段階では簡単に踏み切れない。そういうなかでサコさんが決断されたのは大変な重圧だったと、あらためて思います。

※1 1968年の開学へ向けて、67年12月に発刊された初年度の大学案内に掲載された学長メッセージにある言葉。清風館の外壁には、「大学は学問と教育と深い友情とを発見する場所である」と刻まれた銘板が埋め込まれている。





——コロナが全国の大学に与えた影響は大きく、退学者が増えたり、授業料返還の運動が起こったり、社会問題になりました。精華ではどうだったのでしょうか。

**澤田** 入学していきなり遠隔授業だった世代はやっぱり「大学に来る」意識が弱くなっているように感じます。小さなきつかけで来なくなってしまったり、「そろそろ卒論のテーマを考える時期だから大学に来た方がいいよ」と言っても、なかなか踏み切れなかったり。心理的な影響は大きいと思いますね。

**サコ** いわゆる「コロナ世代」になってしまった1・2年生と、コロナ前の大学生活を知る3・4年生の間に断絶があるんです。通常は入学したらオリエンテーションがあり、半年もすれば友だちもできて大学生になっていくけれど、その期間がなかったために高校から大学へうまく移行できず、どこか恐怖心のようなものを抱いている。だから私たちが「大学に来いよ」とか「大学生活はこうあるべきだ」と理想論を話しても、彼らはその通りに受け取れない面があるんですね。そういうなかで私がうれしかったのは、3・4年生を中心とした学生有志が相談があるとか長室を訪ねて来たこと。後輩たちのために自分たちにできることはないか考えたいと言っています。これはとても精華らしいと思いましたね。

コロナ対応では学生からも教員からもさまざまな意見が出て、議論になったのは事実です。授業のあり方、施設利用や

大学ウェブサイトの学長メッセージにも書きましたが、「学問と教育」と深い友情」を本当に見つけられたかどうか、学生自身が気づくのは、卒業して何年も経ってからになるでしょう。他の大学出身者の話を聞き、比べた時に初めて精華の教育が知らず知らず自分のなかに染み込んでいることがわかれると思う。その日のために大学は存在しているのだし、教職員は大学の理念をもとに、自分たちの行動や教育を常に考える必要があると思っています。

### キャンパスの国際性の意義

——お二人ともアフリカに深い縁があり、大学でも国際交流や海外フィールドワークに長く関わってこられました。コロナ禍で海外との往来や留学は制限されてしまいました。今後どのように教育やキャンパスに国際性を取り戻していけるのでしょうか。また、その意義をお話してください。

**サコ** 先ほども言ったように精華の理念に立ち戻れば、国内外に開かれた教育を行い、世界のさまざまな地域の発展に寄与する人間を育てることが書かれているわけです(※3)。一方で世界はすでにグローバル化が進み、コロナに関係なく、社会に出れば、職場でも街でも当たり前外国人が隣にいます。先日、私に乗ったタクシーの運転手は中国から来た人でした。そういう時代なんです。

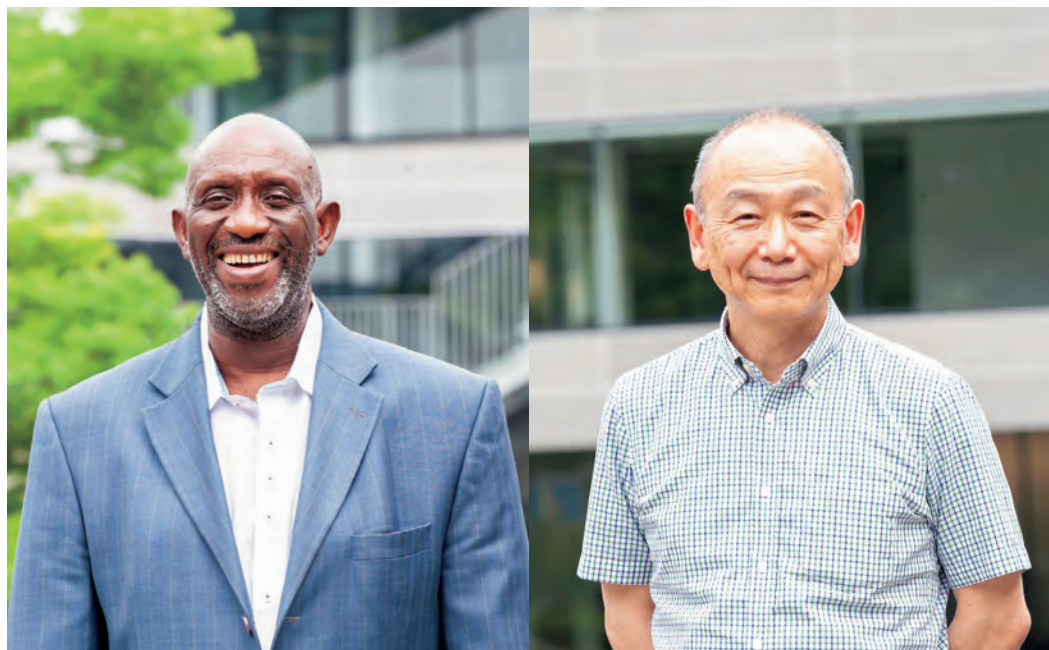
学費の問題、PCR検査の要望……。しかし結果的に大きな問題にならずに収まったのは、みんなで協力して乗り切れたからだと思っています。

**澤田** 教員も設備や予算が十分ではないなか、不慣れな遠隔授業を工夫して懸命にやっていましたからね。学生たちもその姿を見ているから、多少の不満はあっても、そう大きくはならなかったんじゃないでしょうか。

大学の理念をいかに伝えるか

——そうしたコロナ禍の経験を踏まえて、これからの大学教育はどうあるべきだと思いますか。

**サコ** コロナ以前からある傾向ですが、教育は今、親にとって「投資」の対象になっているんですね。「これだけお金を払ったんだから、これぐらいリターンがあるべき」「自分の子はどういうところに就職できるはず」と機械的に成果を求め、学生自身も同じように信じ込まされている。もちろん、社会の経済情勢が厳しいなかで学費を納めてくれるご家族の思いは決して軽視できず、そうした考えも尊重しないといけません。



**ウスビ・サコ** 前学長  
マリ出身。北京語言大学、南京東南大学等を経て、京都大学大学院工学研究科建築学専攻博士課程修了。博士(工学)。研究対象は「居住空間」「京都の町家再生」「西アフリカの世界文化遺産の保存・改修」など。

**澤田 昌人** 学長  
京都大学大学院理学研究科博士後期課程修了。理学博士。山口大学教育学部講師を経て、本学に赴任。アフリカ熱帯雨林に住む狩猟採集民、農耕民の世界観についての研究、および中部アフリカの現代史に関する研究を行う。



だから精華のキャンパスで中国や韓国をはじめ多くの留学生に接し、授業や課題のなかで議論したり一緒に作業をしていくのは、社会に出る前のもともよいトレーニングになると思います。

もちろん最初は留学生に対して気後れる日本人の学生もいます。だけど、ともにプロジェクトに取り組んでいくうちお互いの違いが理解でき、それぞれに良さがあることに気づいていく。違いを認め合い、多様なあり方を尊重する雰囲気

が精華にはありますから。

**澤田** 私は、海外留学や留学生との交流を通して、少なくとも二つのことを学んでほしいと考えています。

一つは、それぞれの国・地域の文化や社会に対してリスペクトを持つこと。国籍や出身地で「この国の人間はこういうやつ」と一括りにしてしまうことなく、まず敬意を持って接し、相手を理解しよ

うとすること。「知らない」ことが、偏った見方や相手を見下すような視点につながるわけですから。

もう一つは、異なる国や文化圏の人と積極的に意見を交換してほしい。日本は同質性の高い社会ですから、話をしなくても相手が何を考えているのか、だいたいわかってしまいますが、外国の人が相手だとそうはいきません。

たとえば今回のロシアとウクライナの戦争について、いろんな国の人に意見を聞いてみる。それだけで簡単にわかり合えたり、戦争がなくなるわけじゃないですけれども、少なくともこの戦争について、ヨーロッパの歴史や関係性について、あるいはスターリン時代のソ連や冷戦構造について、自分が知らなかったことが見えてくると思う。それをきっかけに深く知り、考え、人生を左右するような出会いがあるかもしれない。

彼らがこの大学に在る間にどんな人間になっていくか、これからの社会でどれだけ選択の幅を広げていけるか。お金で学位や資格を得るような考え方は異なる「人間を育てる」教育。これは精華だからこそできると思うし、学生にもそれを感じてほしい。こうでなければならぬと一つの道を最初から決めてしまつたのではなく、いろんな体験を通して多くのことを学び、吸収し、そこから自分をつくってほしいと思います。

**澤田** 同感です。今のお話を聞きながら、昔の理事長によく言われたことを思い出しました。「私学というのは、まず実現したい理念があり、それに対してお金をなげうって追求する教育機関だ。その基本的なルールとして寄附行為があるんだ」ということです。だから私学の教員は、税金で雇用されている国公立の教員よりも、さらに高い倫理的基準を持たなければいけない、と。私も以前、国立大学に勤務したことがありますから、その違いはよくわかります。

サコさんの指摘された、大学にリターンを求める傾向は確かにあって、それは文科省自身が言っているんです。「ディプロマ(卒業証書)を与えたら、これだけのことが可能になると明示しろ。それは公約だから守らないといけない」と国が大学に求めている。それが社会の教育観に影響している面もあるでしょう。

そういう時代のなかで学生とどう向き合い、精華の教育理念を伝えていくか。

精華のキャンパスを、そういう経験や出会いや学びの場所にしたいと思っていますし、そのための取り組みはこれからどんどん取り戻していきたいですね。

**サコ** フランス人留学生と日本の学生が先日話をしていた、「フランスから日本へ来るのに時間がかかるようになった」と。この戦争で飛行機の航路が変わったからだと説明すると、日本の学生は「へえ、そんな影響があるのか」と驚いていました。小さな話ですが、そんなところから世界に関心を持つこともありますよね。

**澤田** 人間尊重と一言で言いましたが、では今の世界で、すべての人間が本当に平等で尊重し合っているのかと言えば、そうではない。現に戦争が起きているし、国によって貧富の差もあります。

だからこそ「人間とは何か、人間を尊重するとはどういうことか」を問い続けたいといけないし、教育していかねばならない。京都精華大学は、学生も教職員もそれを使命とする大学だと私は思っています。

※2 岡本が初代学長に就任する条件として理事會に提出した「教育の基本方針に関する覚書」7項目の筆頭に掲げた方針。〈京都精華短期大学は、人間を尊重し、人間を大切にすることを、その基本理念とする〉とある。また初年度大学案内の学長メッセージでも以下のように書かれています。〈学生を群衆のなかの一人としてしか扱ってはいけない巨大大学においては、学生の孤独からの脱出はきわめて困難である。教師も学生もすべて、まず人間として尊重され、自由と自治の精神の波うつ新しい大学を、これから創造していくこととしているのである〉

※3 岡本が提唱した開学の理念は、自由自治の教育、国際主義の教育、人間形成のための教育。



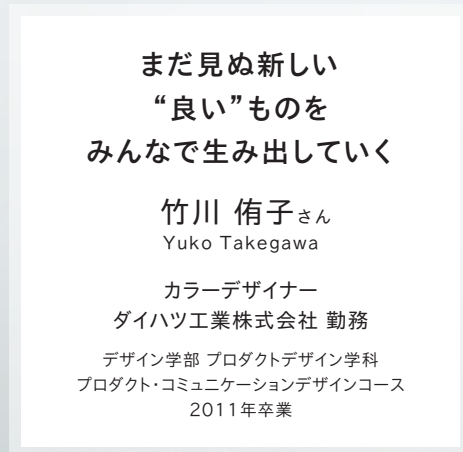


### デザインやイラスト たくさんの表現を 届けたい

清水 夏菜子さん  
Kanako Shimizu

アートディレクター  
Bone株式会社 勤務

デザイン学部 ビジュアルデザイン学科  
グラフィックデザインコース  
2017年卒業



### まだ見ぬ新しい “良い”ものを みんなで生み出していく

竹川 侑子さん  
Yuko Takegawa


カラーデザイナー  
ダイハツ工業株式会社 勤務

デザイン学部 プロダクトデザイン学科  
プロダクト・コミュニケーションデザインコース  
2011年卒業



セイカの思い出

木野祭では、コースの友だちと授業で学んだことをフルに活かして、自分たちの手でお店をつくり上げました。



## 卒業生インタビュー

独自の道を歩む京都  
現在の活動や今後の夢、

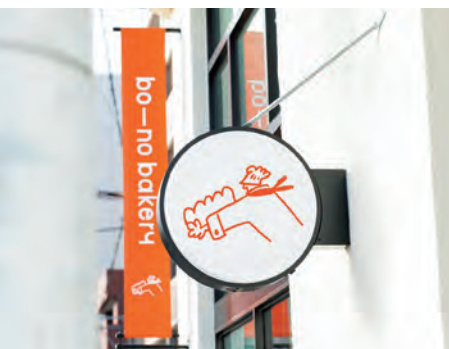
精華大学の卒業生に、  
セイカの思い出を伺いました。

セイカの思い出

針畑生活資料研究会では、滋賀県の山奥で暮らす人々の生活を映像や資料に残す活動で、貴重な経験になりました。



写真提供：針畑生活資料研究会



ブランディングから携ったポーノバカリ

「自分が考えたものが世に出ると、やっぱり感動しますね」と話すのは、アートディレクターとして活躍する清水さん。店舗のロゴやショッパー、店構えなどデザインにまつわるものすべてを担当し、ときには店名を一緒に考えたり、コンセプトづくりに関わることもあるそうです。「お店の方と直接やり取りをすることがほとんどなので、密に仕事ができるのは魅力ですね。その分、ひとりよがりにならない、一生続くような耐久度のあるデザインに仕上げられるよう気をつけています」。進めていくうちに、コストなど経営的な課題を優先し、デザイン面です諦めなくてはいけないことも多々あると言いますが、語られる言葉からは、いろんな壁を柔軟に乗り越え、形にしてきたからこそ力強さを感じます。

清水さんの力の秘訣はもう一つ。それは、大学時代に先生に言われたアドバイスがきっかけになっています。「なんでもいいから1日1制作しなさい、と。同



「使う人に寄り添ったデザイン」をめざす

小さいころから絵を描いたり、小物をつくったりすることが好きだった竹川さん。「ものづくりで誰かに喜んでもらえる仕事したい」という夢を実現し、自動車メーカーで車の色や素材に関わるデザインを担当しています。「外装のボディカラーから内装のシート生地など目立つところから、ドアスイッチなどの細かいパーツまで。それらを一ひとつ決めていく際に、使う人に寄り添ったデザインにしていくのが私の仕事です。車のデザイナーとして一番の魅力は、たくさんの人たちと関わりながら形にしているところ。自分が“良い”と感じるものを共有しながら、まだ見ぬ新しい“良い”ものをみんなで一緒に生み出せるので、毎日がとても刺激的ですね」。

竹川さんは、在学中にセイカで学んだすべてが、今の仕事に必要不可欠になっていると言います。「いろんな友人と参



完成までに細かいパーツを一つひとつ決めていく



イラストレーター・キヨカナコとして、スキマスイッチのベストアルバムも手がけた

今後の展望については、「たくさんの人たちの想いや考えに触れながら、使う人の“嬉しい”や“幸せ”につながるものづくりをしていきたいです。これからの自動車は便利だけでなく、より広い概念を必要としています。今後も枠にとらわれず、取り組んでいきたいですね」と語ってくれました。竹川さんのものづくりへの挑戦は、まだまだ続きます。

じ学年の子たちはほとんど覚えていないで、私自身も3年生からやり始めました。取り組んだのは1シーン日記。1日を振り返って、この瞬間がおもしろかった、ここが楽しかった、という記憶を、毎日イラストにしてSNSに上げ続けました。卒業後も地道に継続して、徐々にフォロワー数が伸び、2021年には人気音楽ユニット、スキマスイッチのCDジャケットイラストを担当することに。ファンの方からも評判がよく、あたたかいメッセージをもらったそうです。

「表現することは、人を巻き込むこと。誰か他の人となにかをつくったり、共感が得られたり。人を笑顔にする代表格のアーティストと一緒に仕事ができたのは、その象徴のような気がします。でも、デザイナーとしてもまだまだひよこ。イラストと両方頑張って、ほかにたくさんの方に力を貸していきたいですね」と話す清水さん。これからどんな表現が生み出されていくのか、楽しみにしています。



# 2022年度役職者・入職教職員、2021年度退職教職員一覧

2021年度をもって21名の教員、3名の職員が退職となりました。これまでのご活動に深く感謝するとともに、ますますのご健康とご活躍をお祈りいたします。また、2022年度からは29名の教員、9名の職員が入職されました。新しい教職員の方を迎え、さらなる研究・教育の発展に力を注いでまいります。

## 2022年度 役職者

- 学長 澤田昌人
- 副学長 蘆田裕史
- 国際文化学部 吉岡恵美子
- 国際文化学部長 山田創平
- メディア表現学部長 吉川昌孝
- 芸術学部長 佐藤光儀
- デザイン学部長 森原規行
- マンガ学部長 姜竣
- ポピュラーカルチャー学部長 吉川昌孝(兼任)
- 人文学部長 山田創平(兼任)
- 芸術研究科長 池垣タタヒコ
- デザイン研究科長 谷本尚子
- マンガ研究科長 おがわさとし
- 人文学研究科長 高橋伸一
- 理事 石田涼
- 専務理事 吉村和真
- 常務理事 細谷周平

## 2022年度 新任教職員

※2022年7月1日時点

- 【教員】
- 国際文化学部 三原尚子
  - 国際文化学部長 山田創平
  - メディア表現学部長 吉川昌孝
  - 芸術学部長 佐藤光儀
  - デザイン学部長 森原規行
  - マンガ学部長 姜竣
  - ポピュラーカルチャー学部長 吉川昌孝(兼任)
  - 人文学部長 山田創平(兼任)
  - 芸術研究科長 池垣タタヒコ
  - デザイン研究科長 谷本尚子
  - マンガ研究科長 おがわさとし
  - 人文学研究科長 高橋伸一
  - 理事 石田涼
  - 専務理事 吉村和真
  - 常務理事 細谷周平

- 【職員】
- 大学院マンガ研究科 松下哲也
  - 共通教育機構 山田小夜歌
  - 内部監査室 森野茂
  - 学長室グループ 中西由加里
  - 学生グループ 浅野賢人
  - 広報グループ 家田麻未
  - 総務グループ 山下美穂
  - 内部監査室 午居隆平
  - グローバル推進グループ ケネス・ロジャヤス
  - 学生グループ 陳思琪

## 2021年度 退職教職員

- 【教員】
- 国際文化学部 水田拓郎
  - 人文学部 三上賀代
  - 芸術学部長 上野真知子
  - デザイン学部長 やんツ
  - マンガ学部長 こげどんぼ
  - ポピュラーカルチャー学部長 富永明日香(助手)
  - 内部監査室 午居隆平
  - グローバル推進グループ ケネス・ロジャヤス
  - 学生グループ 陳思琪

# 木野からヤツホー

あの先生元気かな...? そう思っている卒業生のみなさんへ、セイカの教員からのメッセージです。



1. 毎回テーマに合わせた作品が並ぶ。6月7日は「雨季の余白―拡散する蒼」。部屋に入ると、一服の清涼感に包まれる(鳥羽)
2. 石川九楊先生のDETAILSシリーズのプリンティング・ディレクションを担当(高橋)
3. コロナ状況下で科学史研究とカフェー研究をまとめてみた(斎藤)



最近ではネコと同伴出勤。カフェーの研究も書籍化。



斎藤 光  
ポピュラーカルチャー学部  
ポピュラーカルチャー学科

人文学部で教員をしていましたが、2013年からはポピュラーカルチャー学部に移りました。今もそこに所属しています。そのころから「ネコ」と同伴出勤してもいます。ノリキヨという名前で、キャンパスを我が物顔で歩いています。2010年ころから「カフェー」の研究を始めました。2020年にその成果が『幻の「カフェー」時代』として京都の淡交社から刊行されました。同時に、科学史やカップルやモダンガールの研究も続行中です。最近世間の自由度が落ちていませんか。セイカの自由さで巻き返してほしいと感じています。

私のお気に入り  
ノリはキャンパス全体を気に入っていますが、モアイのオブジェもその一つです



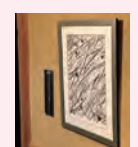
還暦を迎えても、今もなおデザインに忙しい日々。



高橋 亨  
デザイン学部  
ビジュアルデザイン学科

今年、還暦を迎えます。30代で、精華でコンピュータを使ったデザインのお手伝いに来てからもう30年くらい経つのですね。月日の経つのは早いものです。学生とは授業が終わってからよくラーメンを食べに行きました。今はもう胃が受けつけないのとコロナ禍でどこかへ行くことが少なくなってきました。昨年、名誉教授になられた石川九楊先生と何か面白いことができなかなあと、ご自身の作品の筆触の細部を拡大して精密印刷した「DETAILS」シリーズのディレクションを担当したり、再び展示のお仕事にも関わることになりそうで、デザインに忙しい日々は続きそうです。

私のお気に入り  
DETAILSの版書。実家の玄関に飾っています。お客さまから「素敵ですね」とお褒めいただいています



卒業生も駆けつけてくれた「Gallery TOBA」。



鳥羽 美花  
芸術学部  
造形学科

作品置き場を探していました。それがひょんなことからGallery TOBAを開くことになりました。場所は大阪。私には未知の場所で、物理的にも心理的にも遠いところでした。不安はありましたが、自分の作品が時々個展ではなく、恒常的に固定の場所で見てもらえるのは面白いかもしれない、そう考えてのスタートでした。4月のオープン記念展、各地にいる卒業生がたくさん来てくれました。また、伝統染色技法を使った型染作品とその制作過程に地元の人も強い関心を示してくださりました。大きな作品も飾ることができ、こうした挑戦もありかな、と思った春となりました。

私のお気に入り  
長年お願いしているグラフィックデザイナーから展覧会のお祝いにいただいた、800年~1000年前のクメールの仏様の手





## 岡本清一記念講座で多様性を尊重した教育について対談



岡本清一記念講座  
「多様性の中で人を育てる」  
2022年1月21日(金) WEB配信

岡本清一記念講座「多様性の中で人を育てる」が1月21日に開催されました。講師にはユナイテッド・ワールド・カレッジISA K ジャパン代表理事の小林りん氏をお迎えし、ウスビ・サコ学長(当時)と対談を行いました。

同講座は、京都精華大学の初代学長である岡本清一の掲げた建学の理念を受け継ぎ、広く普及することを目的に開設しています。第13回目となる今回も、前回に引き続きオンラインで開催。国内外から、約300名の方より視聴の申し込みがありました。

講演ではまず、日本の教育についての考察を行い、そのうえで、互いが自身の教育における信念に

ついて意見を交わしました。小林氏は社会起業家として、周囲に変化や変革を起こせる「チェンジメーカー」の育成に日々取り組まれています。サコが本学で行っている教育との共通点として、「問いを立てる力」を重視するという点が見い出されました。

対談の最後に、小林氏とサコは、変化を起こす際の「楽観力」の重要性について語り合いました。現状を悲観し嘆くのではなく、変えるためのアクションを起こし、自らの意志で未来を創造していく。そうした変化の積み重ねこそが、より良い社会の実現につながるという話があり、講演が締めくくられました。

## 〈性の多様性〉に関するアートマネジメント人材育成プログラム



「#わたしが好きになる人は #The people I love are」キックオフシンポジウム  
2021年9月11日(土) WEB配信

YouTube チャンネルで  
アーカイブ動画配信中



※SOGI…性の概念の多様性を尊重し、一人ひとりが異なる存在であることを認め合う価値観。Sexual Orientation and Gender Identityの略。  
組織名・役職は、開催当時のものです。

2021年9月11日に「#わたしが好きになる人は #The people I love are」キックオフシンポジウムをオンライン開催しました。このシンポジウムでは、4名の専門家をゲストに迎え、SOGI※の正しい知識と国内の最新事例を共有し、社会形成の可能性を探りました。ゲストはティーター・ジェニファ・ルイーズ(京都精華大学ダイバーシティ推進センター長、クリエイターの太田尚樹氏(LGBTエンタメサイト「やる気あり美」編集長)、国際人権法、ジェンダー法を専門とする谷口洋幸氏(青山学院大学法学部教授)、本田耕志氏(京都市文化市民局共生社会推進室人権文化推進担当係長)。

ティーターは、学内に設置された「みんなのトイレ」など、多様な人々をサポートし、よりインクルーシブなキャンパスづくりをめざす本学の取り組みを紹介。太田氏は「作品を見終わった一人でも多くの人にLGBTQに対して偏見がなくなることをめざしています」と語りました。

また、谷口氏は「みんな違いを持った同じ人間。そのなかに、LGBTQの問題だけではなく、さまざまなマイノリティに対して人権の視点から意識を向けるということが重要になってくるのではないか」と述べ、本田氏は京都市パートナーシップ宣誓制度の具体的な取り組みを紹介しました。

## 〈縮小社会〉の実相を示すデータと現実を生きるためのヒント

企画展「縮小社会のエビデンスとメッセージ」人口・経済/医療・福祉/教育・文化/地域・国際、そしてマンガ」が京都国際マンガミュージアムで開催されました。同展は、本学と人間文化研究機構・国際日本文化研究センターとの協定に基づき、研究会「縮小社会の文化創造」の問題関心を引き継ぐ形で企画されたもの。人間文化研究機構「博物館・展示を活用した最先端研究の可視化・高度化事業」の一環として開催され、本学卒業生の高橋耕平氏がアートディレクターとして関わりました。

日本人人口が縮小され、加えて経済的な豊かさが失われるなかで、社会的・文化的活動を経済の文脈



写真撮影(上・左):大河原光

「縮小社会のエビデンスとメッセージ：人口・経済/医療・福祉/教育・文化/地域・国際、そしてマンガ」  
2022年1月22日(土)~5月16日(月)  
京都国際マンガミュージアム

に限定せず、それがもつ個の「生」を充実させる働きをどのように活かしていくことができるか。「人口・経済/医療・福祉/教育・文化/地域・国際」の4つのセクションが展示され、〈縮小社会〉の実相を示すデータ「エビデンス」と、そうした現実を生きるためのヒント「メッセージ」が提示されました。「地域・国際」のコーナーでは本学卒業生の川村淳平氏による「多国籍な和食」の図解イラストも展開。関連イベントとして、縮小社会について考えさせるドキュメンタリー映画を上映し、それぞれの監督を迎えたトーク・セッションや公開シンポジウムも開催されました。

## 第一線で活躍するゲストが登場したアセンブリーアワー講演会



アセンブリーアワー講演会

※2021年11月~2022年5月登壇者

2021年

- 11月25日(木) 李 琴峰(作家/日中翻訳家)
- 12月9日(木) 伊藤亜紗(美学者/東京工業大学リベラルアーツ研究教育院教授)

2022年

- 11月13日(木) 高田 唯(グラフィックデザイナー/本学教員)
- 2月20日(日) 金森 香([True Colors FASHION]プロデューサー/一般社団法人DRIFTERS INTERNATIONAL) ×山口壮大([True Colors FASHION]ファッションディレクター/スタイリスト、ファッションディレクター)
- 5月12日(木) 細田 守(映画監督)

公開トークイベント「アセンブリーアワー講演会」には、今期もさまざまな講師が登場しました。芥川賞作家の李琴峰氏は「言語と文学の冒険の旅路」と題し、日本語学習歴や、そのなかで感じた日本語の面白さや美しさについて語りました。

美学者の伊藤亜紗氏は「触覚などの曖昧な感覚から、自分が持つ多様性を発見できる。自身の多様性を知ることが、他者が持つ多様性を理解することになり、それが人を自由にする技としての『リベラルアーツ』につながっていく」と話しました。

グラフィックデザイナーであり、本学デザイン学部客員教員でもある

高田唯は、これまで手がけた仕事などを通して、デザインの特質や本質について講演しました。社会的包摂をファクションから考えるプロジェクト「True Colors FASHION」に携わった金森香氏と山口壮大氏は、誰もが心地よく生きられる社会のためには、この社会に生きるすべての人が思考し、議論し続けることが重要だと述べました。

卒業生の中村佳穂さんが主人公の声優に大抜擢された、アニメーション映画『竜とそばかすの姫』を手がけた映画監督の細田守氏は、同作の制作秘話をはじめ、アニメーション映画の可能性や今後の表現について語りました。

## 貸借対照表

(単位:円)

科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定資産	26,546,774,633	25,516,952,202	1,029,822,431
有形固定資産	18,589,602,094	17,472,569,074	1,117,033,020
土地	4,214,991,704	4,214,991,704	0
建物	12,143,164,226	10,467,932,809	1,675,231,417
構築物	107,934,852	92,091,367	15,843,485
教育研究用機器備品	815,632,808	768,519,498	47,113,310
管理用機器備品	34,089,253	24,724,568	9,364,685
図書	1,172,427,748	1,158,704,839	13,722,909
車両	381,503	9	381,494
建設仮勘定	100,980,000	745,604,280	△ 644,624,280
特定資産	7,782,522,253	7,854,490,237	△ 71,967,984
第3号基本金引当特定資産	150,000,000	150,000,000	0
退職給与引当特定資産	1,365,727,116	1,265,727,116	100,000,000
減価償却引当特定資産	6,266,795,137	6,438,763,121	△ 171,967,984
その他の固定資産	174,650,286	189,892,891	△ 15,242,605
電話加入権	3,633,424	3,633,424	0
ソフトウェア	19,955,210	20,880,022	△ 924,812
長期貸付金	146,305,442	160,623,235	△ 14,317,793
保証金	4,756,210	4,756,210	0
流動資産	4,315,399,704	3,678,412,254	636,987,450
現金預金	3,987,477,954	3,489,227,656	498,250,298
未収入金	238,655,713	117,507,369	121,148,344
貯蔵品	18,674,281	18,713,090	△ 38,809
短期貸付金	28,156,870	28,678,620	△ 521,750
立替金	11,222,412	10,179,812	1,042,600
前払金	30,730,853	14,105,707	16,625,146
預け金	481,621	0	481,621
資産の部合計	30,862,174,337	29,195,364,456	1,666,809,881

(単位:円)

科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定負債	3,999,230,184	3,002,698,763	996,531,421
長期借入金	2,621,013,000	1,625,128,000	995,885,000
退職給与引当金	1,378,217,184	1,377,570,763	646,421
流動負債	1,359,184,059	1,370,390,541	△ 11,206,482
短期借入金	244,458,000	235,014,000	9,444,000
未払金	214,811,521	158,251,797	56,559,724
前受金	719,871,220	814,469,045	△ 94,597,825
預り金	180,043,318	162,655,699	17,387,619
負債の部合計	5,358,414,243	4,373,089,304	985,324,939
基本金	31,056,143,901	30,510,641,355	545,502,546
第1号基本金	30,482,143,901	29,936,641,355	545,502,546
第3号基本金	150,000,000	150,000,000	0
第4号基本金	424,000,000	424,000,000	0
繰越収支差額	△ 5,552,383,807	△ 5,688,366,203	135,982,396
翌年度繰越収支差額	△ 5,552,383,807	△ 5,688,366,203	135,982,396
純資産の部合計	25,503,760,094	24,822,275,152	681,484,942
負債及び純資産の部合計	30,862,174,337	29,195,364,456	1,666,809,881

# 決算および予算について

学校法人京都精華大学の2021年度決算および、  
2022年度予算についてご報告いたします。

## 2021年度決算について

2021年度の事業活動収入は前年度から7億2千万円増加し、66億5千万円でした。このうち学生納付金は80.5%を占めています。

事業活動支出(人件費・経費等)は59億7千万円で、当年度の基本金組入前収支差額は6億8千万円の収入超過となりました。また、基本財産取得に関わる金額を示す基本金組入額は5億5千万円となりました。当年度には、2022年2月に竣工した明窓館の建替えに伴う本体工事やそれに付随する外構工事ほか、一部校舎の空調機器更新工事にかかる費用等を施設関係支出として支払いました。これらのうち、明窓館建替え工事の主な費用については市金融機関からの新規借入金を充当したため基本金組入額に含んでいませんが、それ以外の自己資金による施設関係支出や設備関係支出等を当年度の第1号基本金として組み入れています。なお、基本金組入後の翌年度繰越収支差額は支出超過額が5億5千万円に減少しました。

支払資金(現金・預金)は前年度比5億円増の39億9千万円となりました。法人の資産全体としては固定資産の増加等により16億7千万円の増加です。また、前述のとおり校舎建築のための新規借入を行ったこと等により、負債も9億9千万円増加しました。これらにより、純資産は6億8千万円の増加です。

以上の結果、純資産構成比率は2.4ポイント低下し、82.6%となりました。

### 事業活動収支計算書

(単位:円)

	科 目	金 額
教育活動収支	事業活動収入の部	
	学生生徒等納付金	5,357,052,750
	手数料	77,907,954
	寄付金	25,249,502
	経常費等補助金	653,313,987
	国庫補助金	645,139,760
	地方公共団体補助金	8,174,227
	付随事業収入	173,983,782
	雑収入	257,025,190
	教育活動収入計	6,544,533,165
事業活動支出の部		
人件費	3,307,745,898	
教育研究経費	2,109,538,635	
管理経費	529,802,292	
徴収不能額等	0	
教育活動支出計	5,947,086,825	
教育活動収支差額	597,446,340	
教育活動外収支	事業活動収入の部	
	受取利息・配当金	63,017,733
	その他の教育活動外収入	0
	教育活動外収入計	63,017,733
	事業活動支出の部	
借入金等利息	22,131,357	
その他の教育活動外支出	0	
教育活動外支出計	22,131,357	
教育活動外収支差額	40,886,376	
経常収支差額	638,332,716	
特別収支	事業活動収入の部	
	資産売却差額	2,059,997
	その他の特別収入	42,604,147
	特別収入計	44,664,144
	事業活動支出の部	
	資産処分差額	648,906
その他の特別支出	863,012	
特別支出計	1,511,918	
特別収支差額	43,152,226	
基本金組入前当年度収支差額	681,484,942	
基本金組入額合計	△ 545,502,546	
当年度収支差額	135,982,396	
前年度繰越収支差額	△ 5,688,366,203	
翌年度繰越収支差額	△ 5,552,383,807	
(参考)		
事業活動収入計	6,652,215,042	
事業活動支出計	5,970,730,100	

### 資金収支計算書

(単位:円)

	科 目	金 額
収入の部	学生生徒等納付金収入	5,357,052,750
	手数料収入	77,907,954
	寄付金収入	49,714,502
	補助金収入	665,857,987
	国庫補助金収入	657,683,760
	地方公共団体補助金収入	8,174,227
	資産売却収入	2,351,677
	付随事業・収益事業収入	173,983,782
	受取利息・配当金収入	63,017,733
	雑収入	257,713,590
支出の部	借入金等収入	1,249,000,000
	前受金収入	719,871,220
	その他の収入	1,329,362,824
	資金収入調整勘定	△ 1,053,048,063
	前年度繰越支払資金	3,489,227,656
	収入の部合計	12,382,013,612
	人件費支出	3,307,099,477
	教育研究経費支出	1,600,775,424
	管理経費支出	503,945,223
	借入金等利息支出	22,131,357
借入金等返済支出	243,671,000	
施設関係支出	1,470,500,970	
設備関係支出	177,047,024	
資産運用支出	1,097,258,016	
その他の支出	198,357,691	
資金支出調整勘定	△ 226,250,524	
翌年度繰越支払資金	3,987,477,954	
支出の部合計	12,382,013,612	

## 2022年度予算について

2022年度には、竣工後も継続して工事を行っていた明窓館の大ホールが完成します。そのため、通常の経常支出予算に加え、明窓館の大ホールに関する工事費用や舞台装置・音響機器の設置費用等を予算化し、資金収支予算、事業活動収支予算の各費目に計上しました。また、2024年度を到達点としたビジョン「2024SEIKA」の達成に向け、重点施策に関わる教育研究活動・学生支援活動やキャンパス整備のための予算等を特別事業計画予算として編成しました。一方、収入予算については学生数の増加により学生生徒等納付金収入が前年度決算から比べて3億4千万円の増収となることを見込んでいます。単年度の事業活動収支は基本財産取得に関わる基本金組入等を含めると1億2千万円の支出超過となりますが、基本金組入前の収支は収入超過を維持します。

### 事業活動収支予算書

(単位:円)

	科 目	金 額
教育活動収支	事業活動収入の部	
	学生生徒等納付金	5,700,904,000
	手数料	76,550,000
	寄付金	23,000,000
	経常費等補助金	445,850,000
	付随事業収入	186,458,000
	雑収入	105,900,000
	教育活動収入計	6,538,662,000
	事業活動支出の部	
	人件費	3,406,662,000
教育研究経費	2,238,404,000	
管理経費	580,142,000	
教育活動支出計	6,225,208,000	
教育活動収支差額	313,454,000	
教育活動外収支	事業活動収入の部	
	受取利息・配当金	57,602,000
	事業活動支出の部	
	借入金等利息	22,592,000
	教育活動外支出計	22,592,000
教育活動外収支差額	35,010,000	
経常収支差額	348,464,000	
特別収支	事業活動収入の部	
	資産売却差額	0
	その他の特別収入	14,500,000
	特別収入計	14,500,000
	事業活動支出の部	
	資産処分差額	8,190,000
特別支出計	8,190,000	
特別収支差額	6,310,000	
(予備費)		0
基本金組入前当年度収支差額	354,774,000	
基本金組入額合計	△ 478,668,000	
当年度収支差額	△ 123,894,000	
前年度繰越収支差額	△ 5,552,383,807	
翌年度繰越収支差額	△ 5,676,277,807	
(参考)		
事業活動収入計	6,610,764,000	
事業活動支出計	6,255,990,000	

### 資金収支予算書

(単位:円)

	科 目	金 額
収入の部	学生生徒等納付金収入	5,700,904,000
	手数料収入	76,550,000
	寄付金収入	35,000,000
	補助金収入	445,850,000
	付随事業・収益事業収入	186,458,000
	受取利息・配当金収入	57,602,000
	雑収入	105,900,000
	借入金収入	0
	前受金収入	785,937,000
	その他の収入	1,155,229,018
資金収入調整勘定	△ 819,871,220	
前年度繰越支払資金	3,987,477,954	
収入の部合計	11,717,036,752	
支出の部	人件費支出	3,386,720,000
	教育研究経費支出	1,653,516,000
	管理経費支出	547,953,000
	借入金等利息支出	22,592,000
	借入金等返済支出	244,458,000
	施設関係支出	293,937,000
	設備関係支出	214,042,000
	資産運用支出	1,000,000,000
	その他の支出	225,272,521
	(予備費)	0
資金支出調整勘定	△ 112,000,000	
翌年度繰越支払資金	4,240,546,231	
支出の部合計	11,717,036,752	



京都精華大学ギャラリーTerra-S ※入場無料

- 「死ぬまで絵を描き続けるには 2」  
2022年8月2日(火)～8月9日(火)
- 「光をくぐり抜けた人」  
2022年8月2日(火)～8月9日(火)
- 「合同陶芸展」  
2022年8月26日(金)～8月31日(水)
- 「参与観察2」  
2022年9月6日(火)～9月14日(水)



〔休場〕日曜日・祝日  
〔時間〕11:00～18:00

〔問い合わせ先〕  
京都精華大学ギャラリーTerra-S  
☎075-702-5263

京都国際マンガミュージアム

- 「描くひと 谷ロジロー展」  
2022年6月2日(木)～8月29日(月)
- 「大乙嫁語り展」  
2022年9月17日(土)～12月26日(月)



〔休館〕毎週火・水曜(祝日の場合は翌日)  
※ただし、7月14日(木)～8月29日(月)は無休  
11月23日(水・祝)は開館、11月24日(木)は休館

〔時間〕10:30～17:30(最終入館/17:00)

※9月17・18日(土・日)は、「京都国際マンガ・アニメフェア2022」開催につき10:30～19:30(最終入館は19:00)

〔問い合わせ先〕  
京都国際マンガミュージアム  
☎075-254-7414

その他公開講座

- アセンブリーアワー講演会
- 公開講座ガーデン など



サテライトスペースKara-S

- ショップ
  - ギャラリー
- 在学生、卒業生の作品が並びます。



活躍する在学生、卒業生の情報を募集しています。

多数の在学生が社会貢献活動やコンテストでの受賞など広く活躍しています。詳細はぜひウェブサイトをご覧ください。また、今後も木野通信では、活躍する在学生や卒業生情報を紹介していく予定です。情報をお持ちの方は、広報グループまでお知らせください。

- 京都精華大学ウェブサイト  
<https://www.kyoto-seika.ac.jp>
- 広報グループ  
kouhou@kyoto-seika.ac.jp



News 05



高校生の創作活動を応援するコンペティション「SEIKA AWARD2022」を開催

高校生の自由な創作活動の応援と新しい才能の発見を目的とした、本学主催のコンペティション「SEIKA AWARD」を2022年3月に開催しました。3年目となる今回は1053点の応募があり、“自由”をテーマに、さまざまな表現方法で創作した新鮮で熱量のある作品が展開されました。厳正なる審査の結果、グランプリ1点、学長賞1点、優秀賞5点、部門賞6点、奨励賞30点、入選作品127点を選出しました。入選作品・審査結果は、ウェブサイトにて公開しています。同コンペティションはさらなる発展をめざし、第4回も始動。

2023年3月に結果発表予定です。



「SEIKA AWARD」ウェブサイト

News 06



メディア表現学部教員 鹿野利春の著書が出版。情報教育に関する講演会にも多数登壇

メディア表現学部教員、鹿野利春の共著『情報科教育法 これからの情報教育』が出版されました。2022年度から実施される新教育課程に対応したもので、情報科教育の背景や共通教科情報科の目標と内容、プログラミング学習などの新教育課程のポイントを解説。学生や高校教員にも役立つテキストです。また、鹿野が監修した『高校の情報Iが1冊でしっかりわかる本』も出版されました。

そのほか、6月4日に行われた教育関係者向けセミナー「NEW EDUCATION EXPO2022」に講師として参加。「国立大で必須化、教科『情報』の大学入試に備える」をテーマに現場の事例を紹介しながら意見を交わすなど、情報教育に関するイベントや講演会にも多数登壇しています。

News 03



伝統産業イノベーションセンターがシンポジウム「工芸から覗く未来」を開催

多角的な視点で社会課題を議論するシンポジウム「Tangible/Intangible-工芸から覗く未来」を、KYOTO KOUGEI WEEKの一環として2021年12月17日に開催しました。

本イベントは、会場となった京都伝統産業ミュージアムで開催中の特別企画展「SHOKUNIN pass/path」の出演作家や、手仕事における流通・販売分野に携わる登壇者を迎えて2部構成で実施。"tangible/intangible"(有形・無形)をテーマに、自然環境やプロダクトデザイン、教育、職人文化など工芸をめぐる事柄について議論しました。会場参加と動画配信のハイブリッド形式で120名以上の方が参加し、伝統的な手仕事を起点として、未来の社会像についての議論が交わされました。

News 04



「2021年日本留学AWARDS」で初の入賞。自校の留学生に勧めたい進学先として評価

「2021年日本留学AWARDS」で本学が初めて入賞しました。一般財団法人日本語教育振興協会が主催する本賞は、日本への留学を志す外国人留学生の環境整備を目的に実施されています。全国の日本語学校教職員に「自校の留学生に勧めたい進学先」についてアンケートを行い、上位となった大学・専門学校が表彰されました。評価の基準は、留学生のサポートや教育内容、入試システムなど、現場の日本語学校教職員が進路指導で注目している項目です。今回は、私立大学文科系部門として表彰された10大学のうちの1校に選出されました。

「日本留学AWARDS」ウェブサイト



News 01



京都精華大学 学長表彰 2021年度受賞者が決定

同賞は京都精華大学の名誉を高める功績を収めた本学の関係者を表彰するものです。厳正なる選考の結果、2021年度は下記2名と1組が受賞しました。

- 【学長賞】  
中村裕太  
(芸術学部教員、芸術研究科博士後期課程修了)
- 【学長特別賞】  
「セイカマテリアルリユースステーション」制作チーム  
SMaRT(デザイン学部教員・学生によるグループ)
- 【卒業生功労賞】  
金沢寿美  
(芸術学部洋画分野卒業、芸術研究科博士前期課程修了)

Student 02



アニメーションコース学生が鞍馬をテーマにしたアニメーションを制作

マンガ学部アニメーションコースの学生8名が「鞍馬」をテーマに制作したアニメーションを制作。昨年9月から約1カ月間公開されました。本作品は、京都市左京区で実施された「鞍馬の文化」発信プロジェクト「あっ、それ鞍馬だ」の一環として実施され、土砂災害による叡山電鉄鞍馬線運休区間の運転再開にあわせて、叡山電鉄鞍馬線「貴船口」駅構内等で放映されました。制作にあたって、鞍馬寺、由岐神社、門前の風景、叡山電鉄の車内など、学生みずから現地に足を運び、綿密なロケを行いました。完成したアニメーションでは、撮影した実写映像も組み合わせ、鞍馬の魅力を存分に描いています。

公開動画「京の神秘 鞍馬山」





## ～ご支援くださる皆様へ～ (ご寄付のお願い)

本学で学ぶ多くの学生の生活支援、本学のさらなる教育・研究活動の充実のため、温かいご支援・ご協力を心よりお願い申し上げます。

### ●寄付募集Webサイト

<https://www.kyoto-seika.ac.jp/about/donate/>

クレジットカード決済、コンビニ決済、インターネットバンキング決済など、ご希望の方法でご寄付いただけます。また2022年4月から、自動で継続的なご寄付ができる「継続寄付」の仕組みも新たに導入しています。



### ●京都市ふるさと納税寄付金

<https://www.city.kyoto.lg.jp/gyozai/page/0000186773.html>

本学は、地域と連携した社会貢献活動に積極的に取り組んでいます。今回、京都市との連携協定にもとづき「大学のまち京都・学生のまち京都」の推進に取り組むこととなりました。ふるさと納税の使い道で、「『大学のまち京都・学生のまち京都』の推進～市内大学と協働!学生さんの挑戦を応援!～」をお選びいただき、「京都精華大学と協働!」を指定いただきますと、ふるさと納税の寄付金の一部が、本学の社会貢献活動の費用に充てられます。新しい寄付の形として、ぜひご利用ください。

### ●リサイクル募金(旧称:古本募金)Webサイト

<https://lp.kishapon.com/seika/>

読み終えられた本やDVDに加え、貴金属、ブランド品、切手、年賀状、商品券などをご提供ください。その査定換金額が京都精華大学に寄付される取り組みです。

※2021年度は、法人・個人あわせて54,588,773円のご寄付をいただきました(うち、リサイクル募金は217,903円)。ありがとうございます。深く感謝いたします。2022年度も、本学のめざす「表現で世界を変える」教育・研究活動のために、ぜひみなさまにお力添えいただければ幸いです。ご支援・ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

### お問い合わせ

京都精華大学 経営企画グループ 寄付募集担当

E-mail: [donation@kyoto-seika.ac.jp](mailto:donation@kyoto-seika.ac.jp)

TEL 075-702-5201 FAX 075-702-5391

『木野通信』送付先ご住所等の変更を希望される方は、木野会ホームページまたはFAXで変更事項をご連絡ください。

学校法人京都精華大学 経営企画グループ 木野会事務局

<https://seikajin.com>

FAX 075-702-5391

## 京都精華大学

### 国際文化学部

人文学科

グローバルスタディーズ学科

### メディア表現学部

メディア表現学科

### 芸術学部

造形学科

### デザイン学部

イラスト学科

ビジュアルデザイン学科

プロダクトデザイン学科

建築学科

### マンガ学部

マンガ学科

アニメーション学科

### 人間環境デザインプログラム

### 人文学部

総合人文学科

### ポピュラーカルチャー学部

ポピュラーカルチャー学科

### 大学院

芸術研究科

デザイン研究科

マンガ研究科

人文学研究科

### 表紙の作品

『Flor』2021年度卒業制作

宮下 マリアナさん 芸術学部 映像専攻

素材: acrylic crayon, fabric paint,  
silkscreen on paper

サイズ: 266mm×394mm



大事にしているのは制作の過程を楽しむことです。新たなアイデアが見えてくるので、ずっと実験を繰り返しながら制作をしています。なのでいつも作品が思わぬ変化を見せます。写真を撮ったり、音楽を録音するように、絵で瞬間を記録しています。よく使っている技法はシルクスクリーンのモノタイプで、時間がかりすぎないことが重要なので、あまり考えすぎずに直感的に描いています。即興が大好きです。

## 木野通信

KINO PRESS.

木野通信 第78号

2022年7月29日発行

京都精華大学 広報グループ

〒606-8588 京都市左京区岩倉木野町137

TEL 075-702-5197 [www.kyoto-seika.ac.jp](http://www.kyoto-seika.ac.jp)